敵討浪速男

へ13
2378
152

特
遠
2378
152

戊辰新刻
十返舍一九作

大叶
永壽堂板
歌川國貞画

緒言

著于冨浪速男者原本
攄麦木立窓重荷之院
本而所述之也冊中之
俠客喧哗屋五郎左門
朝比奈藤兵衛之事跡
者粗所知人而勇壯義
氣在可賞矣今也搜羅
其嗣編而以上梓云

十返舍一九題 (真)

慶應大学

喧哗屋五郎左門
朝比奈藤兵衛

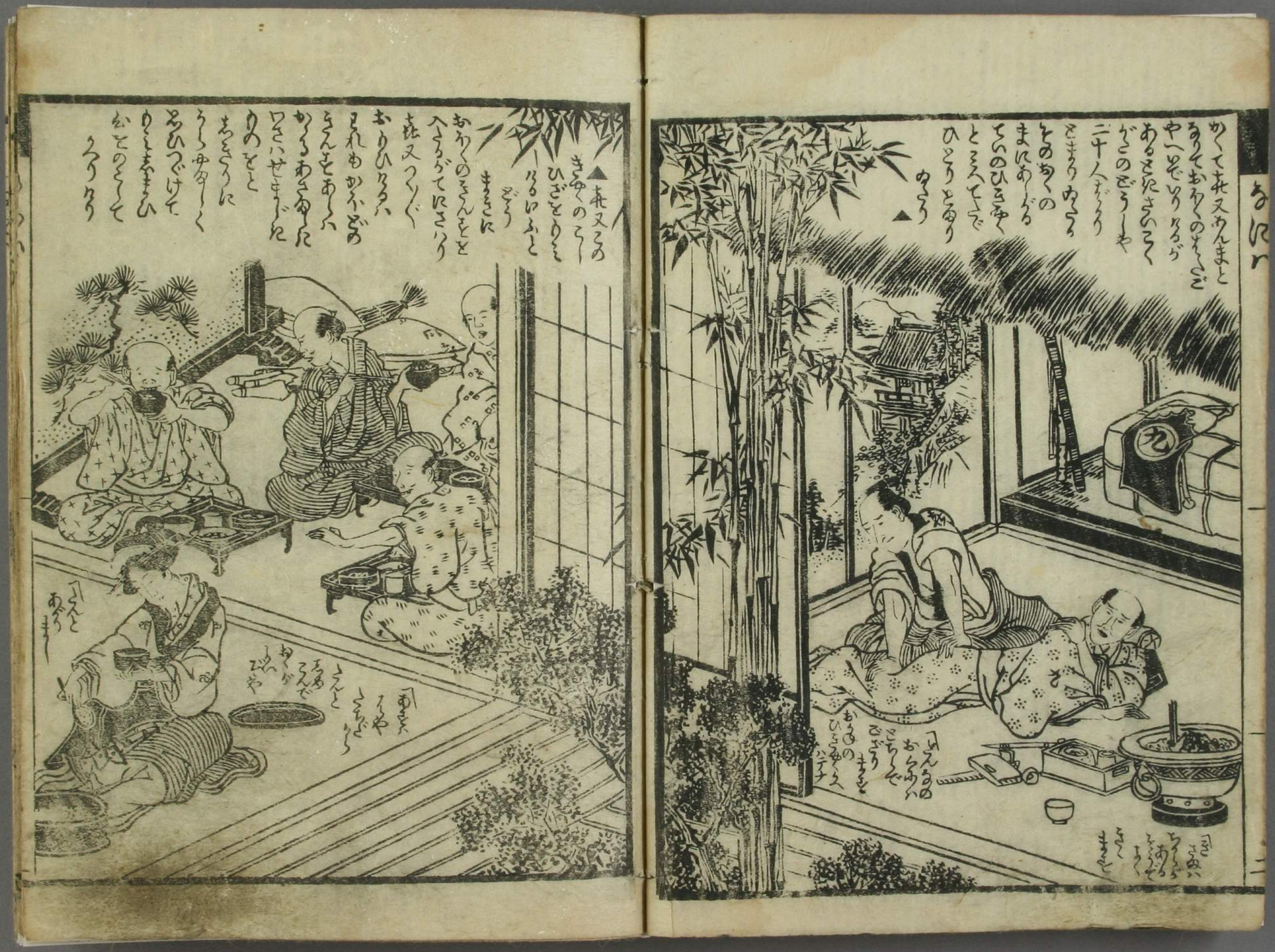
冨士浪速男編

十返舍一九著作
歌川国貞画図
全部五冊

○此前編五冊八年出板売出しの処大に評を得ける故にこゝ
さらに次編を作りて前編の敵討の始末をつゞきにかゝる

さるかぢに長松 森又はおりひ
かけをくゝりん化をところせ〜と
わ〜ふれされどもあさひふ
敬義ぶかきけ〜そ
ろちをたとかり今八
く〜ゆ〜ゆるも
ゑ〜れどとれろ
さでひとりろ〜と
ゆてともあ〜ぶ〜と
出ちけいぜんぜふおろ〜る
とんまろてご〜のさとを
さ〜てこ〜ろがそ〜も
たどりり

日參講中


かくて花又ゑんまと
ありておろくのそこそ
やへそりろうが
あるさたさいて
がこのごうーや
二十人ばかり
さまろめくろ
そのあくの
まにあーがる
そいのひさめ
とこへてで
ひとりとあり
めろう
▲
ゑんまのおくふへ
こちらへ
ござりまさ
おろのひさめくへ
ハテナ
きあハ
ちくあ
ろくて
まさと
▲花又ろの
きあくのろ
ひざをりこ
ーるいふと
ごろ
まさに
おりくのろんをと
へろうがてにさり
花又つりく
おりひろろハ
ろれもかふぐ
ろんをあーハ
かるあさあに
ワさハせまだに
りのをと
まさろに
ろーあターく
ろひでけて
りこまさひ
ふとのくて
ろろ
えんと
あろまさ
えんと
ろあ
ろんで
ゆくり
ふんでや
あまさ
ろやや
ろろが

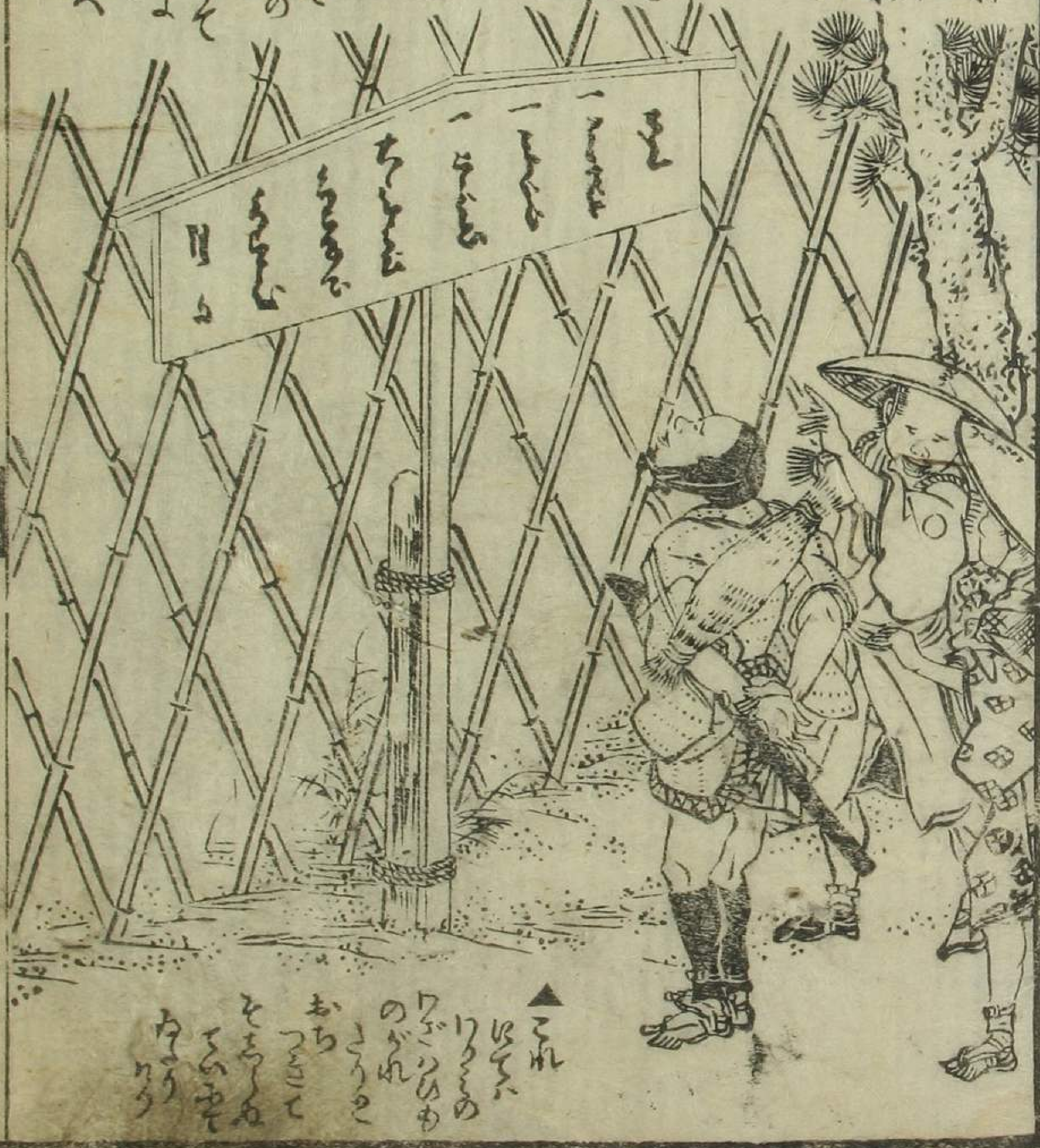
はるかに
まあ
えんに
ぐと

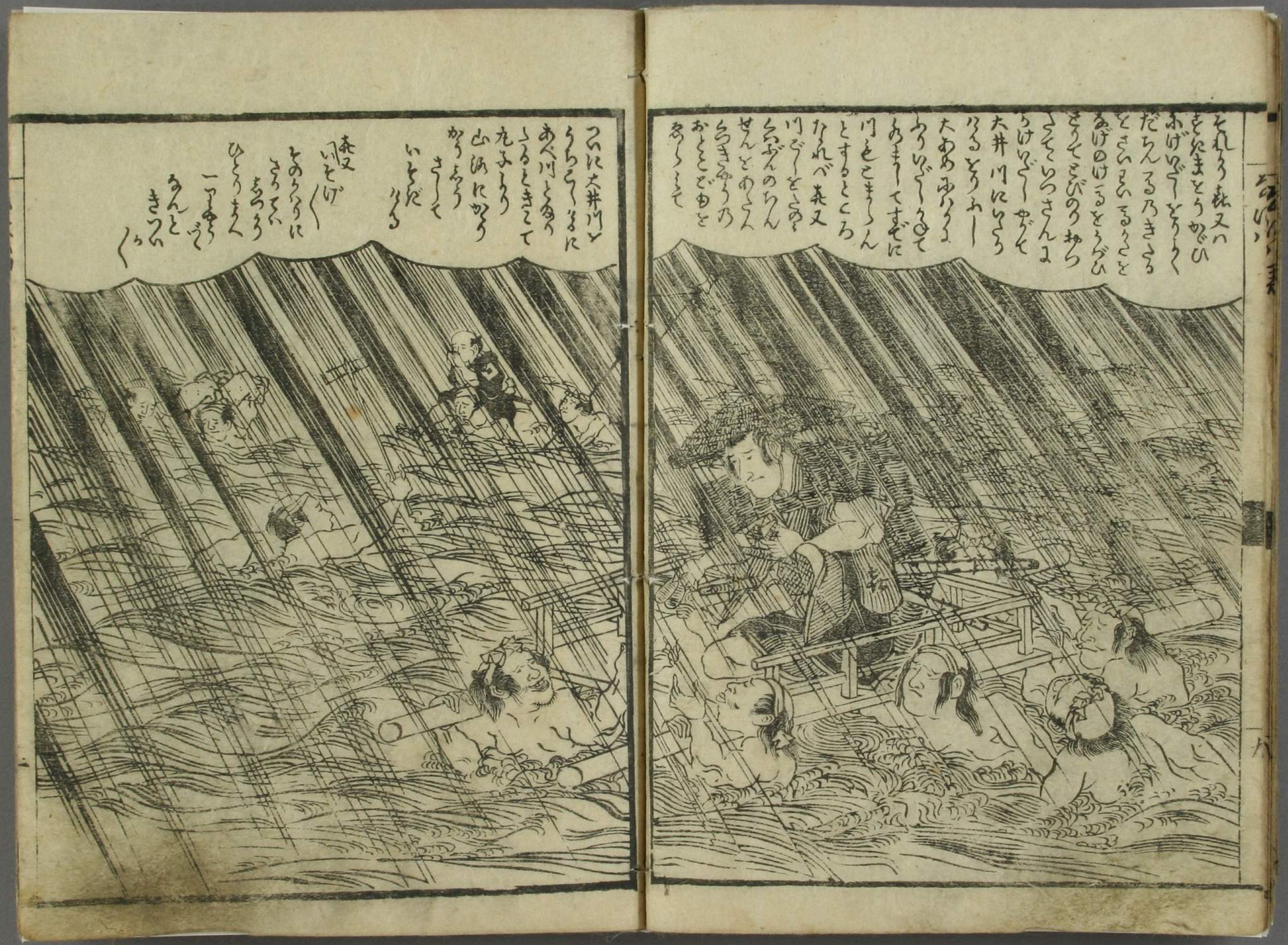
▲まあ
さらに
ぞさ。
ごうしの
あとを
大せい
まて
おひ
ゆたり

さてうさうにさんじよのたくさんなやさいうきうりろくひやくきあるにみさをつてさうーやさもよわけぬうちにこちそーハられらぐちぐにうさぐひあるまでとおひくにあろうけさうろうさんなーこいふまつなーにてやうーくあつはさふぐさあるぬをんもーうんせんあとのくまりりるあをとそうーやぐもたふいろうあふゆんるれくとぬをんぐろうするそたさのとろれとひふにせささこーちさいいそうちにおをへあぐーわいやどのいさゆくをころーさんをうぐしるるのあふーぐうちふあーんひさをじてせんぐすると
ぬを人めるめ
ふけうをてふこうろ
ひーやどもせんろくあくくこれおぐいみろれぐもさかどにうぐぶことろーんうちて
ひくゆへぐうーやどもせんろくあくくこれおぐいみろれぐもさかどにうぐぶことろーんうちて
ろうろくうあーハひろうもうぐちハやぬぞ
こみさんこちハひーちとぐーくてぐうすのぐや
あうりとこさんとこちろれてうりう
五

わくぐハあふせりくハいろはの
ざう〳〵やどものねがひのとをり
今此日のうちにそのおがはんと
せんきたいぐ〳〵てけいざいに
おこなふべし それと
さやげおるべし
とてその日ハやどへ
りてそせたまひ
あくぶつばうりて
ちりゝれのぶん人
のうちにまいさいに
さいまうりのと
ひめいぐ〳〵て
ぐくりんはきし
そのそばくよ
はりのあるん人
ところへきん
もゆうだひ
とうとう
ござあくに
まうかくの
こくおとこうへ
ののあのりと
うられにまし
ゆんべうの
ざう〳〵やども

これをきて
さてものくぐハ
のはねぐさらハ
きびくすぎ
そうぞくのまれ
つかくさみの道
ゆりてでこそて
すりかくて
弁天ハままで
まよじんを
こう〳〵さんさを
らかひとりぐ
へかたちのりんを
おのうらいわく
きうにこゝを
うちのだ
こゝがひかりて
あつてかくちんの
ひつちゆう
るのもこの人会せ
ゆくるうちそのの
あるじんを
こゝろせつし道まで
一人せいのむらのよ
めのしとりて
さそハんたぐん
せうら▲




それゝ
ふげいぐーそうく
だちんるのきさる
とさいるいるくさを
あげのけるをうぐひ
さうそこびのうわち
さそこいつさんよ
らけいぐーかぐそ
大井川にいさう
りるをうふー
大あるみりくこ
ゝりいぐーくるて
あまーてすぐに
川をこまーくん
とするところ
なれば其又
川ぐーをこの
らぶんのちん
せんとあくこん
らきみうのう
おくこどもを
ゝくーくこて

こゝに大井川と
うちこくるに
あべ川とあく
るときこて
九ようう
山ゐにかう
かうちう
さこて
いとだ
くる
其又
いとげく
とのうりに
さうこん
ちうう
ひとうまく
一つまう
うんと
きつい
くう

あれもそのさうぶんにんのるごう

まごへさんまるちう

あるさんこちらへこそふは
さぞさむろろだできるされ
あるじくらはりがあつこそ
やりくらのぶるみや
ちぶりい
なるほどいらっしゃれぶのく
おとよがのこんくるまを
さらしてあきれろ
こりゃきこなは
はぐるちは
あさろ
あの
いろふ
その
わらは
ちれろ
のくさ
あなさん
これを
きるる
さの
いろそ
おさむろろ
ちりみているろい
おちろろ
ざー
あいがふ
くろう
まを

浪花男後編大尾

國貞画

十返舍一九 著

歌川國貞画

大政九年丙戌孟春新雕

姫萬双長石鉢木 全一冊
山東京山作
五渡亭國貞画

丈夫婦松連理鉢植 全一冊
歌川國安画
十返舍一九作

昔男癖物語 全二冊
北尾美九画
閑亭傳笑作

親孝行善悪談 全二冊
歌川豊國画
秋堂主人作

指角力手蔓業物 全二冊
北尾美九画

近世俗説譽通夜雑談 歌川國貞画 全六冊

次作 終行 金の草鞋 七編十返舍一九作

○金のわらじ片版目次
○初編 東海道 日本の記
○二編 東海道 京大坂 日本の記
○三編 京大坂 日本の記
○四編 東海道 日本の記
○五編 東海道 日本の記
○六編 東海道 くぐり山
○七編 東海道 日本の記
○八編 東海道 日本の記
○九編 東海道 三河 日本の記
○十編 東海道 日本の記
○十一編 東海道 日本の記
○十二編 東海道 日本の記
○十三編 東海道 日本の記
○十四編 東海道 日本の記
○十五編 東海道 日本の記
○十六編 東海道 日本の記
○十七編 東海道 日本の記
○十八編 東海道 日本の記
○十九編 東海道 日本の記
○二十編 東海道 日本の記
○二十一編 東海道 日本の記
○二十二編 東海道 日本の記
○二十三編 東海道 日本の記
○二十四編 東海道 日本の記
○二十五編 東海道 日本の記
○二十六編 東海道 日本の記
○二十七編 東海道 日本の記
○二十八編 東海道 日本の記
○二十九編 東海道 日本の記
○三十編 東海道 日本の記
○三十一編 東海道 日本の記
○三十二編 東海道 日本の記
○三十三編 東海道 日本の記
○三十四編 東海道 日本の記
○三十五編 東海道 日本の記
○三十六編 東海道 日本の記
○三十七編 東海道 日本の記
○三十八編 東海道 日本の記
○三十九編 東海道 日本の記
○四十編 東海道 日本の記
○四十一編 東海道 日本の記
○四十二編 東海道 日本の記
○四十三編 東海道 日本の記
○四十四編 東海道 日本の記
○四十五編 東海道 日本の記
○四十六編 東海道 日本の記
○四十七編 東海道 日本の記
○四十八編 東海道 日本の記
○四十九編 東海道 日本の記
○五十編 東海道 日本の記
○五十一編 東海道 日本の記
○五十二編 東海道 日本の記
○五十三編 東海道 日本の記
○五十四編 東海道 日本の記
○五十五編 東海道 日本の記
○五十六編 東海道 日本の記
○五十七編 東海道 日本の記
○五十八編 東海道 日本の記
○五十九編 東海道 日本の記
○六十編 東海道 日本の記
○六十一編 東海道 日本の記
○六十二編 東海道 日本の記
○六十三編 東海道 日本の記
○六十四編 東海道 日本の記
○六十五編 東海道 日本の記
○六十六編 東海道 日本の記
○六十七編 東海道 日本の記
○六十八編 東海道 日本の記
○六十九編 東海道 日本の記
○七十編 東海道 日本の記
○七十一編 東海道 日本の記
○七十二編 東海道 日本の記
○七十三編 東海道 日本の記
○七十四編 東海道 日本の記
○七十五編 東海道 日本の記
○七十六編 東海道 日本の記
○七十七編 東海道 日本の記
○七十八編 東海道 日本の記
○七十九編 東海道 日本の記
○八十編 東海道 日本の記
○八十一編 東海道 日本の記
○八十二編 東海道 日本の記
○八十三編 東海道 日本の記
○八十四編 東海道 日本の記
○八十五編 東海道 日本の記
○八十六編 東海道 日本の記
○八十七編 東海道 日本の記
○八十八編 東海道 日本の記
○八十九編 東海道 日本の記
○九十編 東海道 日本の記
○九十一編 東海道 日本の記
○九十二編 東海道 日本の記
○九十三編 東海道 日本の記
○九十四編 東海道 日本の記
○九十五編 東海道 日本の記
○九十六編 東海道 日本の記
○九十七編 東海道 日本の記
○九十八編 東海道 日本の記
○九十九編 東海道 日本の記
○百編 東海道 日本の記

江戸馬喰町三丁目
林屋治兵衛板元